

JAIR Newsletter

No.172 July 2022

日本国際政治学会


<https://jair.or.jp/>

[目次]

巻頭言	1	理事会便り	4
前・事務局からのお知らせ	2	2022 年度研究大会プログラム	5
新・事務局からのお知らせ	2	編集後記	16
2022 年度研究大会に関するお知らせ	3		

理事長挨拶

飯田敬輔

6月18日に行われた評議員会および理事会において、2022-2024 年度の理事長に選出されました。歴代理事長のお名前を拝見すると、その錚々たる顔ぶれに、思わず身が引き締まる思いです。私なりに微力を尽くしていく所存ですので応援のほどよろしくお願いいたします。

今回、理事長職を引き受けるにあたって、理事長の仕事とはなんであろうかと考えたところ、やはり学会の将来について万全の体制を敷いていくことこそ、その最も重要な使命であろうと思に至りました。以下は、本学会がかかえる課題とその解決策です。紙面の関係もあり、短期的課題2つと中長期的課題2つについてだけ触れるにとどめたいと思います。

短期的には、新型コロナについて再度新たな変異株の登場や、別の深刻な感染症などが発生した場合への備えを十分にしておく必要があります。特に研究大会用会場をキャンセルして、それをオンラインにする意思決定過程など、もっと機敏に対応できる態勢を築いておくことが肝要だと思われます。

次に、70周年記念大会に向けての準備です。本学会は2026年に設立70周年を迎えますが、その記念大会をどこで、どのような形態で行うか、またそれに必要とされる予算規模など、諸々のことをシミュレーションしていく必要があります。

中長期的課題も2つだけ挙げたいと思います。まず、本学会のさらなる国際化です。大矢根前理事長のもとで、いくつかのイニシアティブがとられました。たとえば、2021年の研究大会では、本学会の英文ジャーナルの投稿セミナーに加え、外部のジャーナルであるRIPEの投稿セミナーも開催されました。また、2022年3月に開催されたISA研究大会では、日本における国際関係論の現状を紹介するパネルが2つ生まれ、本学会会員が報告を行いました。しかし、本学会の国際性はまだ十分とはいえません。外国人会員の増加や彼らによる報告・討論の機会の増加、あるいは日本からのより一層の海外発信など、まだまだやれることはあるように思います。

最後に、少子化対策です。今後、諸学会は縮小を余儀なくされます。その際に、現状の活動レベルが維持可能なのか、まだ維持可能でないとすれば、どうすればよいか考えていく必要があるでしょう。

こうした諸課題を理事会・評議員会だけでなく、皆さんともに考えていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



前・事務局からのお知らせ

1. 監査の実施

5月初旬、新型コロナ・ウィルス感染症の拡大を考慮し、会計事務所の助言に基づいて、監事への書類郵送によって監査を実施しました。監査の結果、2021年度の事業報告書および決算書類は適正であることが確認されました。

2. 2021年度事業報告書・決算書類の承認

6月18日に開催された定時評議員会において、2021年度の事業報告書および決算書類が承認されました。

3. 2023年度ISAへの参加

ISAより2023年度大会への招待があり、パネル“A New Cold War and the Possibility of De-globalization in the Asia-Pacific”を提案しました。本学会会員に加えてアメリカ、カナダ、韓国の研究者が登壇する予定です。ISA大会は3月にモンリオールにて対面方式で開催されます。

4. 政治学系学会間連携委員会の新委員

6月4日に開催された第12回理事会において、政治学系学会間連携委員会の次期委員として佐々木卓也会員、湯川拓会員が選出され、承認されました。

5. 新入会員の承認

上記理事会において、36名の新入会員の入会が承認されました。会費の納入をもって正式に会員となりますので、入会を承認された方々は会費を納入してくださいませよう、お願いいたします。

6. 学生会員に対する大学院生資格の確認書類の提出について

本学会の学生会員については、年会費をお支払いいただく際、大学院生であることを証明する書類の提出をお願いしております。提出のない場合、一般会員として年会費をお支払いいただくこととなりますことをご了承ください。

7. 2020-2022年期 理事会任期の終了

6月18日に開催された定時評議員会をもちまして、2020-2022年期の理事会の任期は終了いたしました。至らない点が多々あったものと存じますが、これまでのご指導、ご鞭撻に心より感謝申し上げます。

2020-2022年期理事長 大矢根聡
2020-2022年期事務局主任 武田知己

新・事務局からのお知らせ

一般財団法人 日本国際政治学会 会員各位

新理事会発足のお知らせ

2020-2022年期理事会は、6月18日に開催された定時評議員会をもって任期を終了し、その評議員会で選出された新理事11名による新理事会が、2022-2024年期に業務を執行することになりました（定款21条第1項）。同じ評議員会において、新たな監事（任期2年）も選出され、理事会による業務執行の監査にあたることになりました。

監事：磯崎典世 山田敦

また、6月18日には、続いて最初の新理事会を開催し、理事長および副理事長、事務局主任（常任理事）、各理事の職務について決議をおこないました（定款21条第2項）。この決議に基づく新理事会の業務分担は以下の通りです。

理事長：飯田敬輔 副理事長：遠藤貢 事務局主任：池内恵
会計部主任：都留康子 企画・研究委員会主任：大島美穂
編集委員会主任：宮城大蔵 同副主任：井上正也
英文ジャーナル編集委員会主任：鈴木基史
広報委員会主任：倉科一希 同副主任：和田洋典 国際交流委員会主任：楠綾子

新理事会として、先人による研究と学会運営の巨大な蓄積を踏まえ、透明性や公平性をいっそう高め、会員のみなさまの研究活動をさらに活性化できるよう、尽力いたす所存です。みなさまのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2022-2024 年期理事長 飯田敬輔
2022-2024 年期事務局主任 池内恵

2022 年度研究大会に関するお知らせ

2022 年度の研究大会は対面で開催いたします。感染症予防対策に十分に配慮して行いますので、会員の皆様におかれましては、ぜひ積極的にご参加くださいますよう、お願い申し上げます。大会の詳細については今後、学会ホームページおよび会員メーリングリストなどを通じてお知らせいたします。

◆開催日および開催場所

10 月 28 日（金）～30 日（日）仙台国際センター
*会場へのアクセス <http://www.aobayama.jp>

◆懇親会の開催について

不開催とします。参加者の皆さまの感染へのリスク回避と、宮城県からの指導によります。なお、会場で飲食マップを配布いたしますので、感染予防を行っている飲食推奨店にて少人数での会食をお願いいたします。

◆大会当日までのスケジュールは概ね以下のようになります。

【8 月初旬】

○「2022 年度研究大会のご案内」の郵送と学会 HP 上でのお知らせ
・部会および分科会のプログラムと大会の詳細をご案内するとともに、登録申し込みサイトをオープンいたしました。

【9 月中旬】

○ペーパーおよび報告要旨のアップロードの開始
(報告要旨集については、昨年、一昨年に倣い、配布せず、ウェブサイトに掲載します。)

【10 月中旬】

○「報告ペーパー」のダウンロード開始 (→11 月末日で終了)

◆大会についての問い合わせ先

仙台大会実行委員会
[jair2022sendai★gmail.com](mailto:jair2022sendai@gmail.com)
(★を@に置き換えてください。)

充実した大会になりますよう準備を進めて参りますので、会員の皆様には引き続きご理解とご協力をお願い致します。

2022 年度研究大会実行委員長
本多 美樹 (法政大学)

理事会便り

国際交流委員会からのお知らせ

1. 2022年3月のISAにおいて、日本国際政治学会の主催でラウンドテーブルを開催いたしました（詳細はJAIR Newsletter171号をご参照ください。<https://jair.or.jp/wp-content/uploads/publication/nl/NL171.pdf>）。参加者6名に参加費を助成いたしましたことをご報告します。
2. 2022年度第1回国際学術交流助成（5月27日申請締切）は、審議の結果、長史隆会員（立教大学）への助成が決定いたしました。ブエノスアイレスで開催されたWISCのSixth Global International Studies Conferenceに参加した長会員から、報告書を提出いただきました。

国際交流委員会主任 楠 綾子

* * *

ブエノスアイレスでのWISCに参加して

長 史隆

私は、2022年6月28日から7月1日にかけてアルゼンチンのブエノスアイレスにて開催されたThe World International Studies Committee (WISC)主催のThe Sixth Global International Studies Conferenceに参加し、最終日に“Save the Refugees and the Dolphins: Emergence of a Global Consciousness and US-Japanese Relations, 1977-1980”と題した報告を行った。

報告の要旨は以下のとおりである。「1970年代の後半、国際的な相互依存の進展が顕著となるなかで、日米間の摩擦と協力は双方ともに新たな様相を呈するようになった。米国では、従来から存在した経済・貿易問題をめぐる対日非難に加えて、インドシナ難民問題への日本の取り組みの不十分さや日本におけるイルカ捕殺への批判が強まった。1970年代末にかけて、両国は多国間外交を重視しながら難民問題における協力関係を深めた。1970年代後半以降の日米関係は、多国間協力の一翼としての意義を強めると同時に、文化的摩擦に悩まされることとなった」。

討論者はFlavia Guerra Cavalcanti 教授（Federal University of Rio de Janeiro）に務めていただいた。教授は事前に私のペーパーを丹念に読んでおられ、啓発的なコメントを頂いた。とりわけ教授は、1970年代における日本の対米認識と自己認識がそれぞれ大きく変化したことを重要視し、それらとラテンアメリカ諸国の対米認識との差異について言及された。そしてそのような日本の自己認識の変化について、歴史的分析に加えて国家や社会のアイデンティティの変化を扱った理論的な文献による知見を織り込めば、より洗練されたペーパーになるだろうとの助言をいただいた。

私自身の報告以外にも、本大会への参加には大きな意味があった。私はこれまでラテンアメリカを訪れたことはなく、同地は私の知的な視野の埒外にあったと言っても過言ではない。しかし本大会への参加者にはラテンアメリカの研究者が多く、彼らとの交流は私の知的視野を広げることとなった。初日のレセプションの後、アルゼンチン・コロンビア・ブラジルの研究者とともに食事に赴き語り合ったことは思い出深い。加えて、中国とアフリカの関係を専門とするドイツ人研究者と知己になったことも大きな収穫であった。三晩にわたって夕食を共にしたその彼は国際的経験が実に豊富であり、そのような経験の乏しい私にとっては彼との会話から学ぶところ大であった。

私にとって、今回の学会参加は、2017年の春に米国留学から帰国して以降はじめての海外渡航であり、人生で初めてのラテンアメリカ経験となった。狭義の研究上の意味にとどまらず、様々な意味で目を開かされ、今後も海外での学会に積極的に赴き、報告をし、海外の研究者と交流を図ることへの意を強くするに十分な体験となった。このたび国際学術交流助成金を賜れることに改めて謝意を表したい。

広報委員会からのお知らせ

学会ウェブサイトでは、会員の皆様からのシンポジウム等のお知らせや新刊紹介などを随時掲載しております。情報交換・共有の場としてご活用ください。掲載を希望される場合は、ウェブサイトの「お知らせ投稿フォーム」(<https://jair.or.jp/membership/information/form.html>)をご利用のうえ、ご投稿ください。統一的な記録を残していく必要がありますので、お手数ですが、上記のフォームへの記載をお願いいたします。パスワードは、「オンライン会員情報管理システム (e-naf)」内に掲載されております。e-nafにログインいただき

ご確認ください。

その他、ニューズレターやウェブサイトに関してお問い合わせ等がありましたら、広報委員会 (jair-pr☆jair.or.jp) にご連絡ください。(☆を@に代えてください)

広報委員会主任 倉科一希

2022 年度研究大会プログラム

※以下のプログラムは暫定版 (7月25日時点) です。

2022 年度研究大会 部会・共通論題プログラム

第1日 10月28日 (金) 13:00~15:30

午後の部会 (13:00~15:30)

部会1 「日本外交における『価値』の再検討」

司会 井上 寿一 (学習院大学)

報告 奈良岡 聡智 (京都大学)

「近代日本における『理念的外交』——第一次世界大戦期を中心に」

楠 綾子 (国際日本文化研究センター)

「戦後日本外交と『価値』——吉田路線をめぐって」

長 有紀枝 (立教大学)

「人間の安全保障と日本外交における『価値』の再検討」

討論 中西 寛 (京都大学)

佐々木 雄一 (明治学院大学)

部会2 「GAF A をめぐる国際政治経済学」

司会 古城 佳子 (青山学院大学)

報告 吉沢 晃 (関西大学)

「EU の競争政策とデジタル・プラットフォーム事業者規制」

須田 祐子 (東京外国語大学)

「デジタル時代の『規制の政治』とデータプライバシー」

津田 久美子 (北海学園大学)

「デジタル課税の歴史的合意——意義と課題」

討論 遠藤 乾 (東京大学)

西村 もも子 (東京女子大学)

部会3 「国際政治史は刷新されるのか——接近法を問いなおす」

司会 柴山 太 (関西学院大学)

報告 佐藤 尚平 (早稲田大学)

「脱植民地化と史料の移管・破棄・隠匿——日英両帝国の比較に向けて」

益田 肇 (シンガポール国立大学)

「冷戦世界を考えなおす——社会戦争の時代」

高橋 和宏 (法政大学)

「『日米半導体交渉』再考」

討論 後藤 春美 (東京大学)

阿南 友亮 (東北大学)

部会4 **From Voluntarism to Obligation: The Rise of Formal Institutions in the Asia-Pacific** (英語で実施)

Chair: SUZUKI Motoshi (Kyoto University)

Speakers:

HOSHIRO Hiroyuki (University of Tokyo)

“Aid Coordination through Competition?: China and Japan in Pursuit of Economic Infrastructure Projects”

UJI Azusa (Kyoto University)

“Overcoming Political Competition in Environmental Cooperation”

GRIMES William (Boston University)

“Financial Cooperation in the Asia-Pacific as Regime Complex: Explaining Patterns of Coverage, Membership, and Rules”

HOLLIFIELD James (Southern Methodist University)

“The Politics of Migration in the Asia-Pacific”

Discussant:

MIDFORD Paul (Meiji Gakuin University)

部会 5 「宗教要因とリベラル秩序の動揺」

司会 見市 建 (早稲田大学)

報告 高光 佳絵 (千葉大学)

「戦間期における YMCA ネットワークと米国中心のアジア・太平洋秩序形成」

星野 昌裕 (南山大学)

「中国の民族・宗教政策とリベラル秩序の変容」

坂梨 祥 (日本エネルギー経済研究所中東研究センター)

「イランの宗教学体制とリベラル秩序——異議申し立てと正当性」

討論 山崎 望 (駒沢大学)

横田 貴之 (明治大学)

分科会セッション A (15:45~17:45) 別掲

第 2 日 10 月 29 日 (土) 9:30~12:00, 16:15~19:05 (共通論題)

午前の部会 (9:30~12:00)

部会 6 「政治と音楽——国際関係を動かす対抗文化」

司会 細田 晴子 (日本大学)

報告 松本 佐保 (日本大学)

「イギリスの脱植民地化とロック、パンク、レゲエ音楽」

福田 宏 (成城大学)

「『正常化』期のチェコスロヴァキアにおける『脱イデオロギー化』とロック音楽の持つ政治的位相の変容」

高田 馨里 (大妻女子大学)

「文化戦争から対テロ戦争へ——Rap/Hip Hop の軍事化を問う」

討論 半澤 朝彦 (明治学院大学)

松尾 秀哉 (龍谷大学)

部会 7 「同盟からネットワークへ——安全保障協力の新潮流」

司会 森 聡 (慶應義塾大学)

報告 神保 謙 (慶應義塾大学)

「インド太平洋地域における安全保障協力の構図」

山口 信治 (防衛研究所)

「中国のパートナーシップ外交」

溜 和敏 (中京大学)

「死語としての非同盟——現代インドの安全保障協力概念」

討論 庄司 智孝 (防衛研究所)

福田 潤一 (笹川平和財団)

部会 8 日韓合同部会 “Economic Security: Japan and South Korea” 【英語で実施】

Chair: IIDA Keisuke (University of Tokyo)

Speakers:

SUGINOHARA Masako (Ferris University)

“Economic Security: The Case of Japan”

LEE Seungjoo (Chung-Ang University)
“US-China Strategic Competition and the Evolution of Korea’s Economic Statecraft”
LEE Wanghwi (Ajou University)
“Economic Security in Korea: Issues and Implications”

Discussants:

SOHN Yul (Yonsei University)
VEKASI Kristin (University of Maine)
LEE Junghwan (Seoul National University)

部会 9 「政治体制・内政と外交とのリンケージ」 *** 非登壇共著者**

司会 松本 はる香 (アジア経済研究所)
報告 井上 一郎 (関西学院大学)
「官僚制と習近平時代の中国対外政策決定」
仙石 学 (北海道大学)
「中東欧諸国の政党政治とウクライナ」
浜中 新吾 (龍谷大学)、原田 有一朗* (龍谷大学)
「分離壁の旗下集結効果——ミクロ的基礎を求めて」
討論 多湖 淳 (早稲田大学)
村上 勇介 (京都大学)

部会 10 「自由論題——国際政治学の最前線」

司会 片岡 貞治 (早稲田大学)
報告 藤川 健太郎 (名古屋大学)
“Building Peace after Self-determination and Partition: Faulty Assumptions?”
ボホロディチ・ベアタ (アダム・ミツキエビッチ大学)
「日米同盟に関する安全保障のコンセンサス——安全保障政策策定におけるシンクタンクと『同盟マネージャー』の役割」
稲永 祐介 (龍谷大学)
「環境危機へのアラート——生物多様性の保全をめぐるフランス政治」
討論 千々和 泰明 (防衛研究所)
窪田 悠一 (日本大学)

分科会セッション B (12:15~13:45) 別掲

分科会セッション C (14:00~15:30) 別掲

総会 (15:45~16:05)

【共通論題】「国際規範の衰退とグローバルガバナンスの停滞」(16:15~19:05)

司会 田所 昌幸 (国際大学)
報告 西崎 文子 (東京大学)
「『力の驕り』再考——冷戦後国際秩序とアメリカ」
廣瀬 陽子 (慶應義塾大学)
「力による現状変更——ロシアの論理にどう対抗するか」
高柳 彰夫 (フェリス女学院大学)
「COVID-19・ウクライナ危機時代のSDGsと国際開発協力のガバナンス」
討論 篠田 英朗 (東京外国語大学)
西谷 真規子 (神戸大学)

第3日 10月30日(日) 14:00~16:30

分科会セッション D (9:30~11:00) 別掲

分科会セッション E (11:15~12:55) 別掲

午後の部会（14:00～16:30）

部会 11 「米ソ冷戦の終焉と東アジア」

司会 李 鍾元（早稲田大学）

報告 金 成浩（琉球大学）

「東アジア冷戦構造の変容と継続——北朝鮮核問題との関連性を中心として」

三宅 康之（関西学院大学）

「中国と米ソ冷戦終焉——パリア国家から世界の工場へ」

若月 秀和（北海学園大学）

「冷戦の終焉と日本の東アジア外交」

討論 江藤 名保子（学習院大学）

富樫 あゆみ（東洋英和女学院大学）

部会 12 「グローバル・マイグレーション——主体・規範・実践の変容と再編」

司会 石井 由香（静岡県立大学）

報告 飯笹 佐代子（青山学院大学）

「マヌス島からの抵抗——オーストラリアの国外難民収容政策と収容されたアーティストらの抗議活動」

杉木 明子（慶應義塾大学）

「国際難民保護レジームの変容とレジリエンス——ノン・ルフールマン原則と難民の非自発的帰還」

堀井 里子（国際教養大学）

「欧州における難民の『自立』支援の批判的検討——非国家主体によるトランスナショナルな実践」

討論 土谷 岳史（高崎経済大学）

中坂 恵美子（中央大学）

部会 13 「核兵器をめぐる国際政治の現在」

司会 秋山 信将（一橋大学）

報告 川崎 哲（ピースボート）

「核兵器禁止条約の意義と展望」

鶴岡 路人（慶應義塾大学）

「ポスト INF 条約の課題」

向 和歌奈（亜細亜大学）

「核軍縮における先制不使用の効用と限界」

討論 石田 淳（東京大学）

栗田 真広（防衛研究所）

部会 14 「ウクライナ・ロシア問題の多角的考察」（市民講座を兼ねる）

司会 宇山 智彦（北海道大学）

報告 大串 敦（慶應義塾大学）

「脆弱な中央・強靱な地方——独立後ウクライナの政治構造」

松寄 英也（津田塾大学）

「冷戦終焉とウクライナの秩序観——主権擁護の構想の歴史的変遷」

立石 洋子（同志社大学）

「ロシアのアイデンティティと歴史——ウクライナとの関係の観点から」

討論 浜 由樹子（静岡県立大学）

熊倉 潤（法政大学）

部会 15 「研究・教育を取り巻く環境と課題——ライフワークバランス・ジェンダー・キャリアについての考察（ラウンドテーブル方式）」

司会 畠山 京子（新潟県立大学）

報告 礪波 亜希（筑波大学）

「女性研究者の研究・教育環境と課題——『帰還者』としての経験から」

松岡 美里 (帝京大学)

「加速する社会における研究・教育環境と課題——若手女性研究者の視点から」

堀江 正伸 (青山学院大学)

「大学での研究・教育における『実務家教員』の役割と課題」

分科会プログラム

◆10月28日 (金)

分科会セッションA (15:45~17:45)

A-1 アメリカ政治外交分科会

責任者 水本 義彦 (獨協大学)

テーマ 自由論題

司会 水本 義彦 (獨協大学)

報告 加藤 智裕 (一橋大学)

「ケネディ、ジョンソン政権期のインド・パキスタン政策——インド洋政策との連関、1962-66」

瀬川 高央 (北海道大学)

「カーター政権期における SALT IIの国内的位置づけの変化——軍備管理の追求から安全保障の手段へ」

隋 立国 (一橋大学)

「1993年クリントン政権の対中人権政策——12850号大統領命令の決定過程」

討論 小野沢 透 (京都大学)

竹本 周平 (国際教養大学)

島村 直幸 (杏林大学)

A-2 欧州国際政治史・欧州研究分科会 I

責任者 小川 浩之 (東京大学)

テーマ 1970年代ヨーロッパの政治史とジェンダー／フェミニズム

司会 上原 良子 (フェリス学院大学)

報告 八十田 博人 (共立女子大学)

「1970年代のイタリア・フェミニズム運動の政治史的位罫」

網谷 龍介 (津田塾大学)

「1970年代ヨーロッパにおける男女平等言説の相互作用と分岐——ECと西ドイツの事例から」

討論 小川 有美 (立教大学)

A-3 国際交流分科会 I

責任者 加藤 恵美 (帝京大学)

テーマ 文化外交官柳澤健の学際的研究 戦前・戦中・戦後日本の国際交流ネットワーク形成

司会 芝崎 厚士 (駒澤大学)

報告 中村 信之 (神田外国語大学)

「柳澤健と『国際文化事業』」

瀧井 一博 (国際日本文化研究センター)

「教養主義者の外交観——柳澤健の場合」

林 洋子 (文化庁)

「画家・藤田嗣治と外交官・柳澤健の1920年代から40年代の協働を考える」

討論 武田 知己 (大東文化大学)

芝崎 厚士 (駒澤大学)

A-4 院生・若手研究分科会 I

責任者 細川 真由 (京都大学)

テーマ 欧州統合研究の最前線——行政・政党・金融の視点から

司会 南波 慧 (一橋大学)

報告 福田 智洋 (早稲田大学)

「国際機構による実施の外部委託とその諸課題——EU エージェンシーの行政学的存立意義」

富田 健司 (九州大学)

「『ヨーロッパの守り手』? ——欧州懐疑急進右派ポピュリストの『汎ヨーロッパ』的連携とその理念」

龍花 務 (早稲田大学)
 「英国の対欧州経済通貨同盟政策における変容——『分離する需要』による影響の考察」
 討論 原田 徹 (佛教大学)
 山本 直 (日本大学)
 池本 大輔 (明治学院大学)

A-5 ジェンダー分科会 責任者 古沢 希代子 (東京女子大学)
 テーマ 社会変革とジェンダー・ポリティックス
 司会 古沢 希代子 (東京女子大学)
 報告 松野 明久 (大阪大学)
 「インドネシア 1965 年虐殺と反フェミニズム・プロパガンダ——冷戦期反共言説との関係を問う」
 大形 里美 (九州国際大学)
 「インドネシアにおけるジェンダーに関するイスラム法学のあり方と国内・国際政治」
 雑賀 葉子 (桜美林大学)
 「紛争後復興期のジェンダー・クォータ——東ティモール女性のネットワーク化」
 湯浅 拓也 (大阪産業大学)
 「近代日本外交における女性平和運動——河井道の YWCA での実践とそれを支えた思想」
 討論 増原 綾子 (亜細亜大学)
 中川 香須美 (パンニャサストラ大学)

◆10月29日(土)

分科会セッションB (12:15~13:45)

B-1 日本外交史 I / 東アジア国際政治史 I 合同分科会
 責任者 中島 琢磨 (九州大学)
 五十嵐 隆幸 (防衛大学校)
 テーマ 人種・国籍をめぐる東アジア国際政治史
 司会 家永 真幸 (東京女子大学)
 報告 西村 英之 (中央大学)
 「日米人種・移民問題における日本移民協会の活動と役割」
 江 子正 (京都大学)
 「パリ講和会議における人種平等提案と中国」
 景 旻 (東京大学)
 「中華人民共和国成立初期における国籍政策——『中国人』の認定をめぐる諸問題」
 討論 酒井 一臣 (東京女子大学)
 鶴園 裕基 (香川大学)

B-2 政策決定分科会 責任者 齊藤 孝祐 (上智大学)
 テーマ エコノミックステイトクラフトをめぐる政策形成
 司会 齊藤 孝祐 (上智大学)
 報告 上砂 考廣 (シンガポール国立大学)
 「東アジアのエコノミックステイトクラフト——その開発国家的起源と変容」
 川井 大介 (日本国際問題研究所)
 「米中の技術競争と標準化をめぐる問題」
 討論 松本 栄子 (拓殖大学)
 土屋 貴裕 (京都先端科学大学)

B-3 院生・若手研究分科会 II 責任者 細川 真由 (京都大学)
 テーマ 個人文書がひらく国際関係史研究——第二次世界大戦直前期を題材に
 司会 藤山 一樹 (大阪大学)

- 報告 陳 春松 (京都大学)
「蒋介石の日ソ戦争の誘発に関わる努力 1937-1939」
水野 良哉 (ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス)
『集団安全保障』と『平和的変革』の調和を目指して——一九三〇年代中葉におけるアーノルド・J・トインビーの国際情勢分析を中心に」
- 討論 段 瑞聡 (慶應義塾大学)
奥田 泰広 (愛知県立大学)

- B-4 ロシア・東欧分科会 I** 責任者 長谷川 雄之 (防衛研究所)
- テーマ 1990年代以降の欧州国際政治における秩序変容
- 司会 吉川 元 (広島市立大学)
- 報告 加藤 美保子 (広島市立大学)
「冷戦後ロシアの多国間外交から見る欧州の分断」
玉井 雅隆 (東北公益文科大学)
『ウィーンの内』と『ウィーンの外』——OSCEにおける『分断』とその対応」
- 討論 坪内 淳 (聖心女子大学)
宮脇 昇 (立命館大学)

- B-5 環境分科会** 責任者 高橋 若菜 (宇都宮大学)
- テーマ 捕鯨と気候変動問題が示す環境ガバナンスの歴史と未来
- 司会 石井 敦 (東北大学)
- 報告 佐藤 勉 (国際協力銀行/名古屋大学)
「国際気候ガバナンスと近時の金融部門の動向」
長 史隆 (立教大学)
「クジラとイルカをめぐる日米関係——捕鯨とイルカ捕殺への米国の批判に対する日本の反応を中心に 1970-1982年」
- 討論 亀山 康子 (東京大学)
阪口 功 (学習院大学)

- B-6 国際交流分科会 II** 責任者 加藤 恵美 (帝京大学)
- テーマ 自由論題
- 司会 加藤 恵美 (帝京大学)
- 報告 坂口 可奈 (北海商科大学)
「リー・シェンロン期シンガポールの国家ブランディング戦略——観光資源開発を中心に」
張 雪斌 (大阪経済法科大学)
「一帯一路構想における文化交流——その戦略、アクターとプロセス」
- 討論 李 孝連 (東洋学園大学)
上村 威 (明治大学)

- B-7 中東分科会** 責任者 溝渕 正季 (広島大学)
- テーマ Exploring the New Regional Dynamics of the Middle East (英語で実施)
- 司会 溝渕 正季 (広島大学)
- 報告 山尾 大 (九州大学)、末近 浩太 (立命館大学)
「『アラブの春』以降の対イラン脅威認識の変遷を探る——アラブ諸国主要紙の計量テキスト分析から」
吉川 卓郎 (立命館アジア太平洋大学)、バニ・サラメ ムハンマド (ヤルムーク大学)
“Undermining the Power of Parliament and the People in the Hashemite Kingdom of Jordan? A New Constitutional Amendment Plan and its Political Impact”
- 討論 松尾 昌樹 (宇都宮大学)
渡邊 駿 (一般財団法人日本エネルギー経済研究所中東研究センター)

- B-8 アフリカ分科会** 責任者 矢澤 達宏 (上智大学)
- テーマ 自由論題
- 司会 矢澤 達宏 (上智大学)

- 報告 網中 昭世 (アジア経済研究所)
「労働移民の社会的保護をめぐる規範形成と実践——南部アフリカ鉱山労働者をめぐる補償を中心に」
- 猪口 絢子 (アジア経済研究所)
『ビジネスと人権』規範の国内実施が抱える課題——アフリカ大湖地域における紛争鉱物規制の事例から」
- 徐 博晨 (東京大学)
「重債務貧困国救済計画と有償・無償援助の論争——アフリカ被援助国の視点から」
- 討論 牧野 久美子 (アジア経済研究所)
小川 裕子 (東海大学)
大門 毅 (早稲田大学)

分科会セッションC (14:00~15:30)

- C-1 日本外交史分科会II** 責任者 中島 琢磨 (九州大学)
- テーマ グローバリズムと地域主義——経済をめぐる外交史研究の新天地
- 司会 村井 良太 (駒澤大学)
- 報告 前田 亮介 (北海道大学)
「対外膨張過程における帝国金融秩序の再設計——銀行家・軍・イギリス」
- 吉田 ますみ (三井文庫)
「市場をめぐる政治外交——戦間期の日印英海運問題を題材として」
- 呉 舒平 (京都大学)
「辛亥革命期の『自由主義的アジア主義』——犬養毅と孫文の経済的日中提携論 (1911年から1913年まで)」
- 討論 五百旗頭 薫 (東京大学)
中谷 直司 (帝京大学)
- C-2 平和研究分科会I** 責任者 二村 まどか (法政大学)
* 非登壇共著者
- テーマ 紛争下における平和と正義の追求
- 司会 二村 まどか (法政大学)
- 報告 小阪 真也 (同志社大学)
「国際刑事司法と『不処罰の溝』——国際刑事裁判所に関するローマ規程 (ICC 規程) 非締約国に焦点を当てて」
- 田中 (坂部) 有佳子 (青山学院大学)、佐桑 健太郎* (青山学院大学)、陳 兆昱* (青山学院大学)
「国連 PKO における女性要員と紛争地の暴力：ジェンダー平等推進の検証」
- 討論 篠田 英朗 (東京外国語大学)
二村 まどか (法政大学)
- C-3 ロシア・東欧分科会II** 責任者 長谷川 雄之 (防衛研究所)
- テーマ ロシア帝国・ソ連邦の政治・外交・安全保障
- 司会 長谷川 雄之 (防衛研究所)
- 報告 矢口 啓朗 (岡山大学)
「ウィーン体制におけるロシアの軍事介入」
- 李 優大 (東京大学)
「NEP 期ソ連の利権 (コンセッション) 政策再考」
- 麻田 雅文 (岩手大学)
「ソ連による日本の分割占領と武装解除計画 (1945年8月) ——新史料からの再検討」
- 討論 花田 智之 (防衛研究所)
藤本 健太郎 (工学院大学)
- C-4 国連研究分科会** 責任者 坂根 徹 (法政大学)
- テーマ グローバル・ガバナンスにおける国連の再定位——学際的規範研究の最前線
- 司会 庄司 真理子 (敬愛大学)

- 報告 奥迫 元（早稲田大学）
「国際関係論からのグローバル・ガバナンスにおける国連の再定位」
小寺 智史（西南学院大学）
「グローバル・ガバナンスにおける『法源論』の再検討」
佐藤 滋之（武庫川女子大学）
「難民保護のグローバル・ガバナンスにおける規範の動揺と再定義」
討論 竹内 雅俊（東洋学園大学）

C-5 東南アジア／東アジア国際政治史Ⅱ合同分科会

責任者 青木（岡部）まき（アジア経済研究所）
五十嵐 隆幸（防衛大学校）

- テーマ 国際関係と国内政治の交差
司会 青木（岡部）まき（アジア経済研究所）
報告 森 巧（一橋大学）
「中華民国の地域外交と断交（1966-1975）」
林 昶延（岡山大学）
「韓国政治における制度化過程と安定した民主主義の成立——朴正熙政権から全斗煥政権を中心として」
渡辺 理子（早稲田大学）
「ASEANの『ミャンマー問題』対応——30年にわたる関与から」
討論 青木（岡部）まき（アジア経済研究所）
大澤 傑（愛知学院大学）
鈴木 早苗（東京大学）

C-6 国際政治経済分科会Ⅰ

責任者 西谷 真規子（神戸大学）

- テーマ 欧州ガバナンスの変容とグローバル・ガバナンス
司会 都留 康子（上智大学）
報告 山田 哲也（南山大学）
「国際河川委員会の経験とグローバル・ガバナンス」
塚田 鉄也（桃山学院大学）
「家族呼び寄せ政策のヨーロッパ化」
討論 都留 康子（上智大学）
臼井 陽一郎（新潟国際情報大学）

C-7 国際統合分科会

責任者 小林 正英（尚美学園大学）

- テーマ 統合と周縁
司会 小林 正英（尚美学園大学）
報告 廣瀬 方美（津田塾大学）
「EUの安全保障と紛争防止概念——スウェーデンの視点より」
小窪 千早（静岡県立大学）
「フランス外交と欧州の安全保障——自立の模索と地域秩序の観点から」
討論 広瀬 佳一（防衛大学校）
小林 正英（尚美学園大学）

C-8 理論と方法分科会Ⅰ

責任者 松村 尚子（神戸大学）

- テーマ 国際関係論における実験的手法
司会 松村 尚子（神戸大学）
報告 伊藤 岳（大阪公立大学）
「On the Political Legacies of Herbicidal Warfare」
大槻 一統（東京都立大学）
「Political Institutions and Nuclear Deterrence: Theory and Experiment」
籠谷 公司（大阪経済大学）
「外交的非難のジレンマを解決できるのか」
討論 前川 和歌子（名古屋商科大学）

◆10月30日(日)

分科会セッションD (9:30~11:00)

- D-1 日本外交史分科会Ⅲ** 責任者 中島 琢磨 (九州大学)
テーマ 安保と沖縄——講和条約発効70年に考える
司会 中島 琢磨 (九州大学)
報告 池宮城 陽子 (東京工業大学)
「講和後の沖縄をめぐる日本外交、1953~1955年」
鍛冶 一郎 (東京大学)
「重光葵外相の安保改定構想の検討」
真栄城 拓也 (大阪大学)
「仲吉良光の日本復帰運動の再考——『復帰男』が沖縄返還に果たした役割とは何だったのか」
討論 河野 康子 (法政大学)
櫻澤 誠 (大阪教育大学)
- D-2 理論と方法分科会Ⅱ** 責任者 松村 尚子 (神戸大学)
テーマ 量的テキスト分析 * 非登壇共著者
司会 大林 一広 (一橋大学)
報告 于 海春 (早稲田大学)、周 源* (神戸大学)
「中国国内におけるウクライナ侵攻をめぐる世論形成——Weibo上における中国語書き込みの計
量テキスト分析から」
渡辺 綾 (アジア経済研究所)
“Conflict Dynamics and Domestic Politics: Legislative Deliberation on the Mindanao Conflict in the
Philippines”
討論 阪本 拓人 (東京大学)
- D-3 東アジア国際政治史分科会Ⅲ** 責任者 五十嵐 隆幸 (防衛大学校)
テーマ 第三次台湾海峡危機の再検討——日米同盟と台湾関係法への影響
司会 五十嵐 隆幸 (防衛大学校)
報告 福田 円 (法政大学)
「台湾海峡危機後の米台安全保障関係と日本——1995-2000年」
寺岡 亜由美 (テキサス大学、海外非会員)
「90年代の日米同盟強化プロセスにおける台湾ファクター」
討論 吉田 真吾 (近畿大学)
五十嵐 隆幸 (防衛大学校)
- D-4 トランスナショナル分科会** 責任者 西脇 靖洋 (静岡文化芸術大学)
テーマ 自由論題
司会 西脇 靖洋 (静岡文化芸術大学)
報告 芝井 清久 (ROIS-DS)
「核問題における日本・広島長崎・米国の世論のデータ分析——核軍縮、核抑止、IAEA査察」
富田 晃正 (埼玉大学)
「グローバル化への抵抗と順応——日本の繊維産業を事例に」
植村 充 (東京大学)
「欧州難民危機再び?——ウクライナ大量避難民受入れと2015年難民危機の比較検討」
討論 藤田 泰昌 (長崎大学)
錦田 愛子 (慶應義塾大学)
- D-5 院生・若手研究分科会Ⅲ** 責任者 細川 真由 (京都大学)
テーマ 「リベラル」な国際秩序をめぐる多角的分析
司会 中村 長史 (東京大学)
報告 向田 公輝 (京都大学)
「インド外交と『自由で開かれたインド太平洋戦略』——ナレーンドラ・モディ政権下のイ

ンド独自外交」

李 天寵（青山学院大学）

「ポストコロナ時代における国際秩序の変容——自由主義国際秩序の変化」

討論 井上 あえか（就実大学）

市原 麻衣子（一橋大学）

分科会セッションE（11:15～12:55）

E-1 日本外交史分科会IV

責任者 中島 琢磨（九州大学）

テーマ 戦後日本外交の重要論点——再軍備問題・東南アジア・対ソ外交

司会 福永 文夫（獨協大学）

報告 藤田 吾郎（一橋大学）

「社会秩序維持手段としての日本再軍備——芦田均を中心に」

中西 友汰（同志社大学）

「佐藤栄作の1967年アジア大洋州諸国歴訪と訪米」

横山 雄大（東京大学）

「佐藤栄作政権の対ソ外交——1972年グルムイコ訪日への対応から」

討論 中島 信吾（防衛研究所）

昇 亜美子（慶應義塾大学）

E-2 欧州国際政治史・欧州研究分科会II

責任者 小川 浩之（東京大学）

テーマ 欧州研究における歴史的・空間的視座の拡大

司会 川村 陶子（成蹊大学）

報告 八代 憲彦（東京大学）

「イギリス労働党政権の外交政策とポーランド社会党の関係、1946-48」

根岸 堇（早稲田大学）

「ドイツ移民法の成立とヨーロッパ化」

討論 池田 亮（東北大学）

板橋 拓己（東京大学）

E-3 ラテンアメリカ分科会

責任者 山岡 加奈子（アジア経済研究所）

テーマ 2030 アジェンダ（SDGs）実現に向けて——ラテンアメリカと日本

司会 二村 久則（名古屋大学）

報告 堀坂 浩太郎（ラテンアメリカ協会ラテンアメリカ・カリブ研究所）

「コロナ禍でのラテンアメリカのSDGsと日本の対応」

渡邊 頼純（関西国際大学）

「ラテンアメリカ諸国と日本の経済連携協定（EPA）——メルコスールとのEPAの展望」

浅香 幸枝（南山大学）

「パンアメリカン日系協会との連携について」

討論 二宮 正人（サンパウロ大学、海外非会員）

舩方 周一郎（東京外国語大学）

E-4 安全保障・東アジア合同分科会

責任者 佐竹 知彦（防衛研究所）

荒川 雪（東洋大学）

テーマ グレーゾーンと国際秩序

司会 小谷 賢（日本大学）

報告 瀬戸 崇志（防衛研究所）

「情報化時代の『コバート・アクション（covert action）』——国家による攻撃的サイバー作戦をめぐる課題の歴史的な連続性」

國藤 貴之（慶應義塾大学）

「政策担当者の主観からみるエコノミックステイトクラフトと安全保障戦略のアーキテクチャ——日中韓比の事例を題材として」

尹 在彦（立教大学）

「ディスインフォメーションの脅威と対抗策としての『ファクトチェック』——コロナパンデミ

ック下における韓国報道機関の取組みと課題」

討論 小谷 賢 (日本大学)
井形 彬 (東京大学)

E-5 平和研究分科会 II 責任者 二村 まどか (法政大学)

テーマ 平和と暴力をめぐる国際政治

司会 小林 誠 (お茶の水女子大学)

報告 久保田 雅則 (大阪大学)

「集団的国家アイデンティティとしての平和愛好 (peace-loving) の変容」

山口 優人 (筑波大学)

「テロリズムの暴力論——構造と文化の視座から」

討論 小林 誠 (お茶の水女子大学)

浪岡 新太郎 (明治学院大学)

E-6 国際政治経済分科会 II 責任者 西谷 真規子 (神戸大学)

テーマ アジア地域秩序における経済と安全保障 * 非登壇共著者

司会 勝間田 弘 (東北大学)

報告 増永 真 (文京学院大学)

「冷戦の終焉と残滓、新たな協調と対立が交錯する中での二国間関係——台湾ロシア関係および韓国ロシア関係を事例として」

三浦 秀之 (杏林大学)、浦田 秀次郎* (早稲田大学、非会員)

「デジタル貿易をめぐる多国間および地域におけるルール形成」

討論 土屋 大洋 (慶應義塾大学)

金 ゼンマ (明治大学)

■編集後記

新型コロナウイルスの影響に振り回されたこの2年間でしたが、トンネルの出口は見えてきたようです。以前のような学术交流が復活することを心待ちにしています。本号をもって広報委員会の業務を終了いたします。ありがとうございました。(AK)

ウクライナ危機は、安全保障のみならず資源や食料、世界的なインフレーションなど広範な影響を及ぼしています。この危機の解明が、国際関係の研究にどのような影響を与えるのでしょうか。(IK)

本号の刊行が大変遅くなり申し訳ございませんでした。会員のみなさまにお詫び申しあげると共に、本号の刊行にご協力頂いたみなさまに感謝申し上げます。(SK)

日本国際政治学会ニューズレター No.172
(2022年9月1日発行)

発行人 飯田 敬輔

編集人 楠 綾子・倉科 一希・小林 哲

〒187-0045 東京都小平市学園西町1-29-1
一橋大学小平国際キャンパス国際共同研究
センター2階 客員教官研究室3

日本国際政治学会 一橋事務所気付

楠 綾子 jair-pr☆jair.or.jp